

## 飼育下のエトピリカのヒナはいつ巣立つか？

濱外晴美（バードリサーチ）・福田道雄（東京都葛西臨海水族園）

ヒナが巣立ちを決める要因として、親鳥のヒナへの給餌量の減少とヒナの体重減少が多く、ウミスズメ科の鳥類で報告されている（Gjerdrum 2004 など）。ヒナが自分の体重の減少によって親の給餌量の減少を量るという説もあるが（Morbey et al. 1999）、すべての調査においてヒナの体重減少が認められているわけではない。また、野生では場所や年によって、天候や外敵、餌資源量に違いがあり、それらによる親鳥の給餌量の変化がヒナの成長に大きく影響する。エトピリカや近縁種のニシツノメドリでは成長速度がヒナの巣立ち日に影響することも報告されているが（Gjerdrum 2004, Barrett & Rikardsen 1992）、まだ報告例は少ない。

そこで、一定の資源量、変わらない天候、外敵のいない飼育下において、何がエトピリカのヒナの巣立ちに影響するのかを考察したい。

葛西臨海水族園で飼育されているエトピリカは人工巣箱で繁殖をしている。1995年、2000年、2003年（それぞれ異なるペア）に巣箱内をビデオで録画したテープから、親鳥の給餌回数、給餌量、餌種を調査した。ただし、ヒナは大きくなると巣箱から出てトンネルの中に入ることが多くなるため、すべての給餌の様子を観察することはできなかった。また、巣立って巣から出たヒナを12時間以内に捕獲して、測った体重を巣立ち時体重とした。

巣立ち日数と巣立ち時体重は下表の通りであり、The Birds of North America (Piatt & Kitaysky 2004) によるデータと比較すると、いずれも巣立ち時の日齢が野生下よりも長いのに対して、体重は重くなっていなかった。飼育下におけるエトピリカのヒナの巣立ちが遅い理由として、限られた給餌回数や餌種類によって、ヒナの成鳥速度は野生よりも遅れていたと推測される。また、巣立ち直前まで親による給餌行動が見られたことから、ヒナは巣立ちに適するまで成長するのを待ってから巣立つことができると思われる。

year	pair	巣立ち日齢	巣立ち時体重(g)
1995	♂1 × ♀16	63	-
2000	♂4 × ♀19	51	503
2003	♂30 × ♀16	60	479
*Average		48.2±4.1	472.9±3.29

\*The Birds of North America, Tufted Puffin, 2004による